

## 平成 20 年度 校内研究

### 1 研究主題

生き生きと学び合う子どもの育成

～算数の課題の捉え方や学び合いを通して～ <第1年次>

### 2 主題設定の理由

本校の子どもたちは、明るく素直で日々の学習や様々な活動に意欲的に取り組む。休み時間には、元気いっぱい走り回っている姿が見られる。しかし、ねらいをもって粘り強く活動したり、自分の思いを素直に表現したりすることが苦手な子どもが見られる。また、複雑な家庭環境から、安定して学習に取り組むことができない子どもも見られるので、特別支援的な取り組みを必要としていかなければならない子どもも見られる。また、子どもたちのふだんの生活を見た時に、仲間関係は固定化していることや同じ学習集団の中にあっても、あまり話をすることがなかったり、特にかかわりを持とうとしなかったりする様子が見られる。授業においても、友達の考えに任せてしまい、覚えつつもりになってしまっているのではないかと思わされることさえある。一人ひとりが自分自身の課題と捉え取り組めるようになることと、自ら進んで発表したり表現したりする場を通して、お互いに考えを出し合い学び合おうという姿が見られるようにしていく必要がある。その中で相手の話をよく聞き考え、また相手に返すことができるように深まりや広がりまで伸ばしてやる必要がある。

21 世紀の社会において、いじめや不登校の問題、学校外での社会体験の不足など、豊かな人間性をはぐくむべき時期の教育に大きな課題が残されている。また、ゆとり教育と学力の問題から、OECDによるPISA型学力の国際比較など学力問題も社会的に高まってきている。つまり、自分の意見を論理的に説明できる力が求められてきている。そこで、①情報の取り出し②解釈③熟考・評価の観点で、子どもたちに習得と活用 of 力をつけていく必要があると考え、本主題を設定した。

### 3 学校研究の面からめざす子ども像

自分の考えや思い・疑問を素直に表すことができる子ども

自分の課題に向けて一人学習ができる子ども

共に学び合うことによって、学習を深めることができる子ども

研究主題

主題設定の理由

本校の子どもの「よさ」

特別支援教育の視点

子どもたちに

育てたい「かかわり」

自分の課題への取り組み

PISA型学習力

習得と活用 of 力の  
育成をめざして

めざす子ども像

#### 4 研究の進め方

めざす子ども像を育てるために、算数科の授業を通して、どのような手立てが有効かについて研究を進める。

※研究計画による。

#### 5 研究の重点

##### 【仮説1】(子どもの側に立った学習のあり方)

児童一人ひとりのもつ思いや疑問・感想・問題意識を基にした課題を子どもが自分で見出す工夫をすることによって、意欲的な学習姿勢と主体的な学習を促すのではないか。

##### 【仮説2】(子どもが生きる学習のあり方)

児童一人ひとりが考えを出し合い、互いに学び合うことによって、一人ひとりが活かされ、自分の考えを深めることができるのではないか。

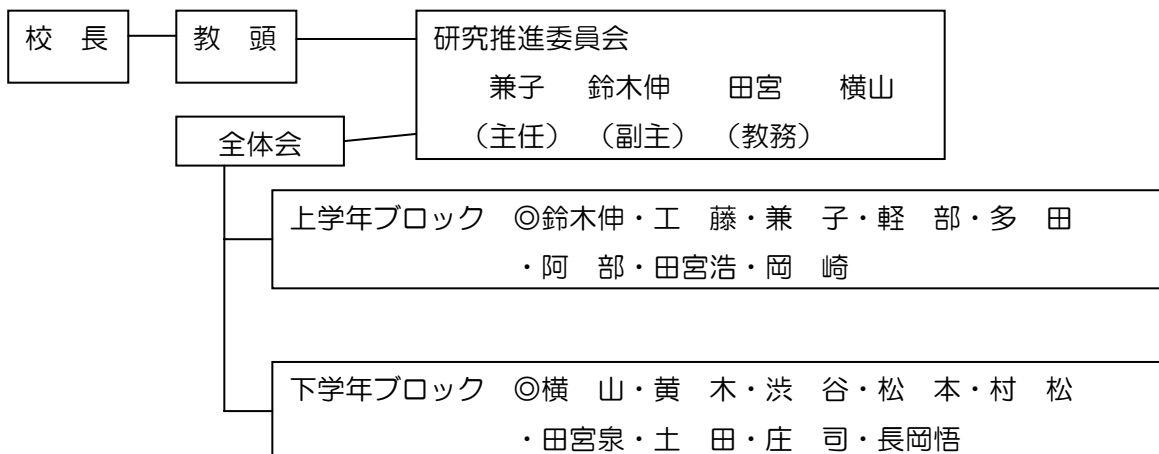
<仮説の視点>

- 仮説1…○ 興味・関心の生まれる導入の工夫
  - 個々の課題，共通の課題の設定の工夫
- 仮説2…○ 学習形態の工夫（一人学び，グループ学習学び合い，2クラスを3クラスに分けての学習）
  - 教え合いや意見の練り合わせの工夫

【本年度の重点】

- 仮説1より 『課題の捉え方（導入の工夫を含む）』
- 仮説2より 『学び合いのし方』 …下学年（伝え合い），  
上学年（練り合い）

#### 6 研究の組織



#### 研究の進め方

- ◎授業研究を通して
  - ・研究の中心として
  - 算数の授業を通して

#### 研究の重点

- ◎子どもから教材をみる

- ◎子どもを活かす

- ◎教師が与える問題から、一人ひとりの課題へ
- ◎授業者が、「かかわり」についてこだわり、授業を提案する

導入

学び合い

#### 研究の組織

## 7 研究計画

### ①研究会の日程

月	研究内容
4	今年度の研究について
5	研究の方向性、内容の確認・共通理解
6	授業研究会①（2年1組）（6年2組） ②（2年3組）（4年1組）
7	授業研究会の総括
8	校内研修会
9	授業研究会③（ひろの学級） ④（みなみ学級）
10	授業研究会⑤（3年1組）（5年1組） ⑥（3年2組）（5年2組） ⑦（1年2組）
11	授業研究会⑧（2年2組）（6年1組） ⑨（1年1組） ⑩（4年2組） 公開研究会報告
12	全体研修会（授業研究会の総括）
1	全体研修会（来年度の研究の方向性） 研究紀要の完成
2	公開研究会報告

### ②授業研究について

- ◎ 1人1回、学級を指導した授業研究を行う。
- ◎ 全体研（2回予定）は全員で参観し、ブロック研は当該ブロック員が参観する（事後研も同様である）。講師の招聘がない授業研究の時は、**ワークショップ型の事後研究会**を行う。
- ◎ **講師招聘は事務所要請 1、2回 市教委は全てについて要請し、市内小中学校には全日程案内する。**
- ◎ 授業の記録は授業者のブロックが対応する（全体の進め方・変容を期待したい子ども）
- ◎ 授業研の中で、本時の中で児童を抽出し、学習の変容を記録していく。

## 研究計画

### 研究会の計画

#### 授業研究のやり方

- ・ 多様な事後研究会の工夫
- ・ 日頃の授業の改善に活かす工夫
- ・ 広く研究会への参加依頼
- ・ 子どもの変容